

# ともろう通信



No.19

2017年4月発行

ともろう  
共朗生 — 共に朗らかに生きていきたい!

★ともろう通信は、認定NPO法人男女共同参画こしがやともろうの機関誌です。  
事業：①男女共同参画関係施設受託事業②男女共同参画の推進を担う人材養成事業  
③情報提供、調査研究事業④自立支援・相談事業⑤子どものための自立支援事業



## 第3期指定管理者としての新たなスタートに向けて

満開の桜が咲き誇る中、新社会人・新入生の姿がまぶしく、心身に希望と勇気がわいてくるような感じがします。

会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日ごろは一方ならぬご支援、ご協力を頂きありがとうございます。

さて、認定NPO法人男女共同参画こしがやともろう(こしがやともろう)は4月より越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」の第3期指定管理者としての5年間を受託し、スタートしました。

これもひとえに会員、登録団体の皆様を始め市民の方々のご理解、ご協力に支えられてのことと深く感謝申し上げます。

新たなスタートに向けて職員の交代がありました。

まず、所長として4年間重責を担っていただいた荒井ひとみさんから松岡年さんにバトンタッチしました。松岡所長は越谷市が男女共同参画社会推進に取り組み始めた頃より、行政と共に多くの市民の方たちと推進に関わり、又、他の男女共同参画センターでの勤務を経て、ともろうが事業を受託したときからの職員です。

また、新しい職員2名を迎えました。二人ともそれぞれの分野での専門職で入りましたが戸惑うこともいろいろあると思いますのでよろしくお願い申し上げます。

こしがやともろうは男女共同参画を推進していくことをミッションにし、「ほっと越谷」の受託事業を中心に活動を展開してまいりました。

今後も理事・職員一丸となり、担当の人権・男女共同参画推進課とも緊密な連携を図りながら市民力、専門力、地域力をつなぎ、より市民と共に歩む施設でありたいと思っています。

なお、ともろうとしての自主事業も計画しております。

今後とも会員の皆様には様々なご支援、ご協力をいただきながら、事業を進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

認定NPO法人男女共同参画こしがやともろう代表理事

駒崎美佐子



## 就任のあいさつ

ほっと越谷所長 松岡 年

皆様におかれましては、日ごろより認定 NPO 法人男女共同参画こしがやともろう（こしがやともろう）の活動にご理解とご支援をいただき、厚くお礼を申し上げます。

この度、荒井ひとみ前所長の後任として、所長に就任致しました理事の松岡年（みのり）です。よろしくお願い申し上げます。

思えば「ほっと越谷」ができる 3 年前（1998 年）に、公募で越谷市共生のまちづくり推進員（まちづくり推進員）となり、そこで土曜日毎週のように男女共同参画専門員、越谷市の担当課の方、まちづくり推進員の皆様と共に、講座運営、情報誌作成をしていたことが、今につながっております。専門員はこしがやともろうの青木理事、市の担当者はこしがやともろうの荒井副代表理事でした。こしがやともろう駒崎代表理事とも、このまちづくり推進員のメンバーとして、その頃に出会っております。まちづくり推進員の活動がご縁になり、男女共同参画センター横浜で 4 年間勤務することができ、「ほっと越谷」に指定管理者制度が導入されることに伴い 2009 年より「ほっと越谷」の事業に携わってまいりました。

私が「ほっと越谷」で大切にしてきた思いは、『ほっと越谷』に行ったら、勇気をもらえた」という場にしたいということです。「ほっと越谷」で一番にした仕事は、来所された方が手にとりやすいように、情報ライブラリーコーナーの本を男女共同参画、生き方・しごと、こころ・からだ、くらしなどテーマごとに分類したことです。その後、たくさんの講座を作ってまいりました。登録団体会議、七夕フェスタでは、登録団体の皆様にご協力をいただき深く感謝しております。

越谷市においては、2016 年度市政世論調査で、「ほっと越谷」を知っている人が 49%でしたが、各地区センターに出前講座に行くと「ほっと越谷」を知らない人が多いことがよくわかります。これからも「ほっと越谷」の事業をつうじて男女共同参画のメッセージを発信し、「ほっと越谷」がその拠点施設であることをより多くの市民の皆様にご知っていただき、性別に関わりなくその人の個性と能力を十分に活かせるような社会の実現をめざして努力してまいります。

会員の皆様、今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



## 退任のあいさつ

ほっと越谷前所長 荒井ひとみ

桜の花が美しい季節となりました。

私ことこの度、3月末日を持ちまして「ほっと越谷」を退任し、当団体の松岡理事に所長を引き継ぐこととなりました。

当団体が、指定管理者として「ほっと越谷」の管理運営を始めたのが平成21年4月。早いもので、8年が過ぎました。

初代の中村所長のあと、平成25年度より、越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」の所長を務めてまいりました。原前代表理事の「古くならない様に新しいのちを注ぐ」という使命のもと、当団体は、民間運営の良さを活かすべく事業を展開してきました。

様々な社会的課題を取り上げた講座の企画事業はもちろんのこと、「ほっと越谷」を気軽に市民の皆様にご利用していただくため、入り口に手書きの看板を設置したり、ホームページからの講座申込など、新しいアイデアを活かしながら施設運営をすすめることができたのは、多くの関係者の皆様の温かいまなざしとご支援のおかげと感謝申し上げます。

そして、七夕フェスタをはじめ、事業に新しい風を吹き込ませる力を貸して下さった登録団体の皆様とのつながりは、私自身を成長させてくれたと受け止めております。本当にありがとうございました。

当団体は、平成29年度より「ほっと越谷」第3期目の指定管理期間となりますが、皆様のご協力をいただきながら、「ほっと越谷」の施設運営を目指してまいりますので引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます。

末筆ではございますが、皆様の益々のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



ほっと越谷前職員 小野 由理

「ほっと越谷」で勤務させていただいてから、いつの間にか6年の歳月がたちました。気づかぬうちに年齢を重ね、退職年齢となりました。私にとっての「ほっと越谷」の6年間は大変に幸せな時間でした。あこがれの場所で勤務をさせていただき、登録団体の方々をはじめ市民の皆様との出会いがあり、皆さんに助けて頂いたことが私にとっての大きな財産になりました。

このたび、私を含め職員2名の退職となりますが、理事である小野が代表して退職のごあいさつをさせていただきます。

お世話になりました皆様はこの場を通じて御礼申し上げます。



## 「ほっと越谷」職員の紹介

今年度より事業を担当させていただきます。

新しい出会いを大切に、講座に活かせるよう頑張ります。

どうぞよろしくお願いいたします。

島津 美弥子

男女共同参画センターに市民として、職員として関わってきました。このたび、「ほっと越谷」のスタッフに加わって、大変嬉しく思います。力不足ですが、「ほっと越谷」に貢献できるように精一杯頑張ります！

作部 径子

「ほっと越谷」に入職して、4年が過ぎました。この4年間の多様な人たちとの出会いは、世界を広げ、自身を成長させてくれました。私自身も出会った人に刺激を与えられる存在でありたいと思っています。 豊田 淑子

「ほっと越谷」のスタッフとなり4年が経過しました。力不足のところも多々ありますが、これからも「ほっと越谷」の事業担当として日々頑張っていきたいと思っています。 厚川 晴美



昨年9月から、夜間スタッフとして勤務しています。

「ほっと越谷」が目指す「最新のホットな情報を発信する場所、ほっとできる場所」のため、少しでもお役に立てればと思います

片柳 勇

3月に大学院を修了しました。社会人一年生です。

何かと皆様に教えて頂くことも多いかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

笠原 梨娑

昨年9月から夜間スタッフとして勤務しています。

趣味は手芸です。

よろしくお願いいたします。

三矢 純子

こしがやともろうで事務担当をすることになりました。新しい事への挑戦です。皆様の助けをお借りして頑張ります。よろしくお願いいたします。

高橋 竹子

## 【報告】

越谷しらこぼと基金助成事業

# 忘れない・伝えたい「記憶を紡ぐ三つの手」

## ～東日本大震災から学ぶ～

認定 NPO 法人男女参画共同 こしがやともろう理事 小野 由理

昨年度の越谷しらこぼと基金助成事業が無事終了しましたので、ご報告させていただきます。

### ひとつめの手 写真・映像で伝える

岩手県山田町の映像上映と「山田プロジェクト」そして越谷へつなぐ記憶の手



開催日 7月31日(日)13:30～16:00

場所 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」セミナールーム

参加者 17人(女性16人、男性1人)

ゲスト 連連影展メンバー 5人      ともろうスタッフ 荒井、小野、駒崎、島津、松岡、山口、渡部

代表理事、駒崎さんの挨拶につづいて、連連影展のメンバーが岩手県山田町に行くきっかけなど話しながら映像をみせてくださった。山田プロジェクトは、ネット上のタペストリーなのでそれを映しながら、様々な人の思いを写真にしてネット上に載せるということで外国の方も参加しているようすを話していただく。

その後休憩をはさんで、用意した越谷の写真を見ながら、自分にとって思い出深い場所などの写真を選び、グループごとに自分がなぜそれを選んだかを話す。

最後に写真をボードに貼り、タペストリーのような形にして終了した。



### ■参加者の感想

- ・盛岡の奥の山田町のこういう支援もいい
- ・写真でキルトというのがめずらしくてよかった。昨年宮古の田老をたずねました。忘れてはいけないことです
- ・人と人のつながりはとても美しい
- ・プロではないので仕方ないと思うけれども、少し物足りなく感じました
- ・これはずっと続けないと忘れてはダメなので
- ・幅広い活動を感じました。越谷の不易流行を目にしました



## ふたつめの手 針を持つ手で伝える 女性たちの思い

フリー刺繍で被災した高田松原を表現する活動を通して、刺繍で伝えることを学び、越谷の記憶を刺繍で表現してみる

開催日 2017年1月29日(日)13:30~16:00

場所 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」セミナールーム

参加者 19人(女性のみ)

講師 天野寛子さん(家族福祉・生活文化研究所 代表 /フリー刺繍画家/昭和女子大学名誉教授)

ともろうスタッフ 荒井、小野、駒崎、山口

講座の始まる1時間半前から、フリー刺繍画家の天野寛子さんの作品を会場に展示。東日本大震災の新聞記事を作品にしたものなどもあり、参加者は作品に見入っていた。



代表理事・駒崎さんの開会のあいさつに続いて、天野寛子さんの講演。

自分自身のフリー刺繍との出会いと、東日本大震災が起こってからの行動について説明をいただいた。陸前高田の松をモチーフにした刺繍を多くの方々が作るというプロジェクトの実施により、被災地の女性たちが針を持つことで気持ちの中で日常をとりもどしていくことなどもお話いただいた。



1時間ほどの講演の後に、実際に刺繍をしてみることに。天野さんが持参された多くの布や糸を使って、参加者は自分の越谷のイメージをさがす。イメージがかたまったら、布を仮留めして、その段階で時間が終了。

次回に完成品を持参いただくということで、講座は終了した。



### ■参加者の感想

- ・手を動かすよさをしみじみ感じる。「何かをしないでいられない」のが人間。参加できて幸せ。
- ・はじめてなので楽しかった。満足しています。
- ・表現の方法に制限がない。プロでなく自分にもできることに自信をもった。
- ・とても深みのある内容でした。
- ・久しぶりに手作業をする機会がもてて楽しかった。創造することの大切さを改めて再認識した。
- ・手法は元からある方法ですが、表現方法の考え方にびっくり。なんでもアイデアだと感じた。
- ・表現の仕方のおもしろさを知った。
- ・フリー刺繍ということですが、針をもつのが苦手な私ですが、作品は完成させようと思う。
- ・フリー刺繍画に出会い、とてもびっくり！ 手に仕事をもって生かせない人がたくさんいると思う。創造性・表現力の無さをつくづく感じた。



## みつめの手 記録を書く・読む 経験をつなぐペンの力

東日本大震災から6年 あの時あなたは・・・ 被災地のみなさんは今・・・

開催日 2017年2月26日(日)13:30～16:00

場所 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」セミナールーム

参加者 15人(女性のみ)

講師 青木玲子さん(独立行政法人国立女性教育会館 研究員)

ともろうスタッフ 荒井、小野、駒崎、山口



講師・青木玲子さんが震災関連の書籍を持参されたので、会場に展示し、1時ごろから参加者が本を手にとってみられるようにした。また、前回のフリー刺繍の完成品6点を展示。

講座は、青木玲子さんに震災をどのように記録していくか、記録することの多様な方法とその記録を保管することの大切さについてのお話をいただき、その後参加者がワークショップを実施。

グループに分かれて、2011年3月11日の自分の状況や家族の状況を話す。そして、青木さんから提供された震災の記録文の一節を順番に一人ひとりが声を出して読む。

再びグループで輪になって、参加者に配られた被災者が撮った写真とコメントの中から、1枚を取って、その感想をお互いに言い合う。

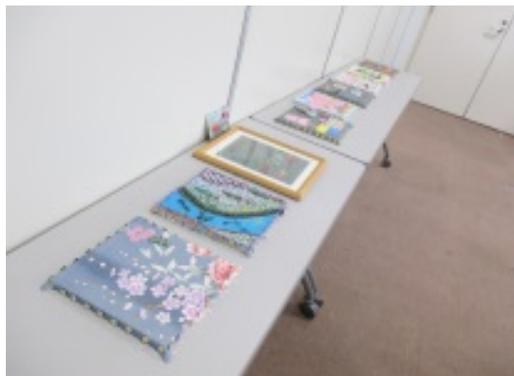
最後に、宮城県の女川第一中学校の生徒の俳句を参加者一人ひとりが読み、そこで感じたことを共有して、講座を終了した。

記憶を記録することの方法が多様にあることを体験した講座となった。



### ■参加者の感想

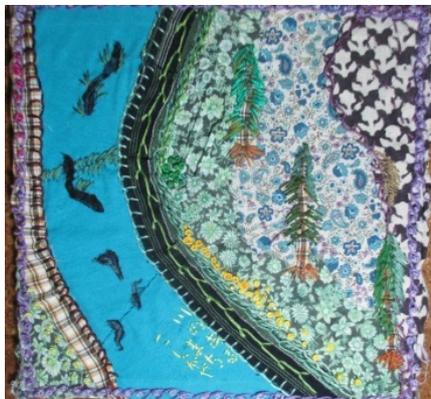
- ・お隣に座った方から、二つの風という話がありました。「風化と風評」に抵抗していきたいです。
- ・伝えること、生かすことの行動化が課題。どうしようかな。まず3月11日のほっと参加。
- ・被災地の方々の声がここに届いたように思いました。
- ・いつまでも気にしなくてはいけない課題なので、私たちも3.11が起こって、そのときは電気も消す時間や電話も通じないのもあったのが、今は少し忘れていて、気をつけなければ・・・
- ・直接体験なく、いろいろ考えました。
- ・遅れて来て内容がわからなかったが勉強になった。



第2回の講座の受講者が作成した刺繍画作品は、次ページに掲載しています。

「ふたつめの手 針を持つ手で伝える 女性たちの思い」で、参加者が作成したフリー刺繍画

第2回の講師・天野寛子さんにご指導いただき、完成した作品をご紹介します。



これらの作品は、「ほっと越谷」内のともろう展示ボードにて、4月27日(木)から5月25日(木)まで展示を予定しています

## 第 61 回国連女性地位委員会(CSW)・雪のニューヨーク

認定 NPO 法人男女共同参画こしがやともろう理事 青木玲子

### 雪のニューヨークへ

3月10日から19日まで、今年も第61回国連女性の地位委員会(CSW61)に NGO として参加のため、ニューヨークに滞在しました。あちらこちらへの連絡など事前の準備もあって、やはり飛び乗るという感じで家を出ました。羽田でいざ出発という段になって、ケネディ空港は雪で出発が遅れる、とアナウンスがありました。この「雪」が今回の CSW のキーワードとなるとはその時には思わず、羽田での4時間待ちは、むしろ深呼吸した感じで、うららかな春っぽい日本の空を見ながら気持ちを切り替えることができました。



国連本部前の CSW61 バナー

着陸前に、ケネディ空港に着陸できない場合は、どことやらの空港に待機するとかなんとか、入管手続きがより厳しくなっているのではないかといやな予感でしたが。なんとか無事到着。激しく斜めに降る雪に一気に冬に戻ったと毛糸の帽子をかぶりました。

### CSW61に参加するために



国連本会議場 開会式

CSW は、国連経済社会理事会(ECOSOC)の機能委員会の一つで、グローバルな政策決定機関であり、ジェンダー平等と女性の地位向上を専門に取り組んでいます。CSW の任務は、女性の権利分野において早急に対応しなければならない課題について、ECOSOC に提言を行うことです。国連加盟国の代表、国連機関、ECOSOC の協議資格を持つ NGO の関係者が毎年、年次の大会に集まります。今年の参加者は、8000 人と聞いています。CSW61 というのは、61 回目年次大会と言う意味です。私は、毎年 国際女性の地位協会(ECOSOC の協議資格を持つ団体)の承認を得て、CSW の会議に登録をして参加しています。この登録はなかなか厳しくて、団体の代表からの承認サイン、また私自身のプロフィールを提出します。国籍、連絡先に加えて、身長や目の色、髪の毛の色なども記入します。その書類を事務局である UN WOMEN へ提出、承認書を現地に持参して、ID カードを首にぶら下げて、国連の建物への出入、会議の参加が出来ます。国連本部の建物の出入は、空港並みのチェックなのでいつも長い行列です。

CSW 会期中は、年間テーマに沿った各国閣僚会議や、専門家によるパネルが開催されます。また過去のテーマが三年ごとに見直され、各国政府、国連機関が主催するサイドイベントが開催されます。今年のテーマは、「変化する仕事の世界での女性の経済的エンパワーメント」で、見直しのテーマは、「女性と女兒のミレニアム開発目標における課題と業績」でした。今回日本のサイドイベントの一つに、所属する JAWW(日本女性監視機構)も参加しました。年間テーマについての討議内容は、年次大会の合意結論としてまとめられます。近年の対立する世界にあって、この「合意結論」に達することが難しくなっているとされています。毎年、毎年難航して、結論に達しなかった年もありますが、今年は、閉会までにまとめ、発表されています。

## 若い世代の CSW での活躍を期待して

アイスランドのイベント



「仕事の世界」、「経済的エンパワーメント」のキーワードは、今日本でも「女性活躍推進法」を受けて論議されています。もちろん世界的にも女性の大きな課題です。各国それぞれの状況は違うのですが、関心はとても高く、特に先進国である北欧やヨーロッパの事例発表には、多くの人が集まりました。

会期中の CSW に参加したとしても、なかなかすべてのイベントに参加できる訳ではなく、特に国連がペーパーレスを主張してから、スケジュールや会議資料を WEB で見ることになりました。スマホを使いこなさなければ、広い国連の中をウロウロするだけです。会議の資料も配布されず、英語で発言を聞くのみでは、なかなか理解できません。ホテルでは毎晩 PC との格闘ですが、時差の残り、ウロウロと歩きまわることが多く、結局いつの間にか眠ってしまうこともありました。何が何だかわからなかった発言が、web でやっとわかったなんてこともありました。いつもは必ず資料の箱を自宅に送るのですが、今年は送らないで済みました。たしかに、紙の膨大な無駄遣いはありますし、きっぱりと徹底しなければ実行できないと思う反面、余程作戦を立てて情報を把握しなければ、読めない不安が残ります。

CSW61 の経過は、「CSW61」とインターネットで検索すれば、UN WOMEN のサイトで資料も読むことができます。また [http:// www.webcat.un.org](http://www.webcat.un.org) で、開会式や他の会議の様子をすべてではありませんが伝えています。国内でも傍聴できます。これから政府主催の報告会や NGO の報告会が予定されています。JAWW の報告会は、5 月 15 日に予定されています。ぜひご参加ください

もう一つ、今年から、本会議前に Youth Forum が立ち上がりました。国連の若い世代への期待が大きく、日本からも、今年初めて若い世代(25 歳以下)の女性が、政府代表団顧問という NGO の代表となりました。国連内でも若い世代が多く、目立ちました。

## やっぱり雪でした

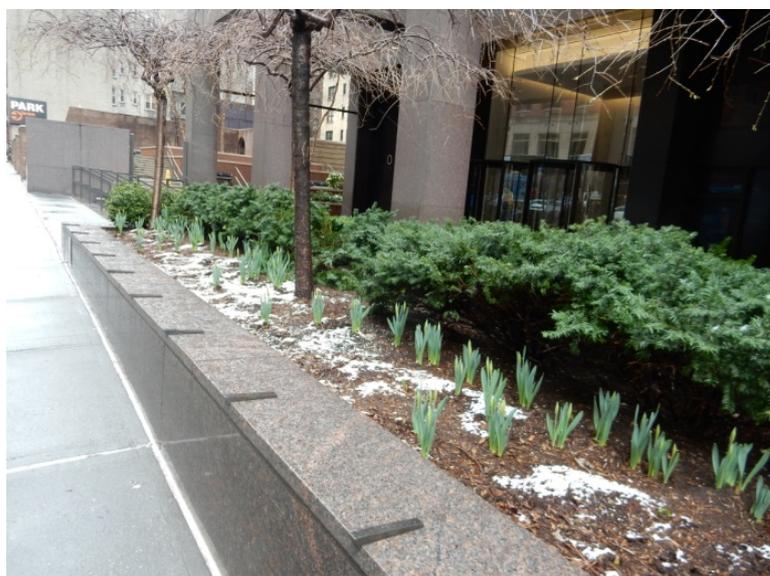
会議が始まって、2日目の午後終了近く、会議中に、議長が明日は雪嵐の警告が出て国連が閉鎖と伝えました。次の日は学校も休み、テレビのキャスターが、「暖かい家に居られる良い日です」と言ったのには、笑ってしまいました。なるほどそう考えるか。私も9階のホテル部屋でゆっくり出来る良い日と考えることにして、一日ホテルで過ごしました。市長もテレビに出演で緊急事態を説明していましたが、結局、雪嵐はニューヨークを逸れて、20cmの積雪でした。夜中に除雪して次の朝は何事もなくいつもの朝でした。

大騒ぎをして、という意見もあったでしょうが、気象情報の非常事態警告をしっかりとらせることが大事だという体験でした。出発の日も飛行機の遅延でちらほらと雪降るニューヨークの空を眺めて過ごしました。今頃は、ニューヨークも雪の中で小さな蕾だった水仙も咲いているでしょう。

2017年3月31日



春を待つ、雪の中の水仙



# こしがやともろうからのお知らせ



## 平成29年度総会

- ◇ 日時 5月29日(月)午後
- ◇ 場所 越谷市市民活動支援センター 活動室B  
(越谷駅東口 越谷ツインシティB 5階)

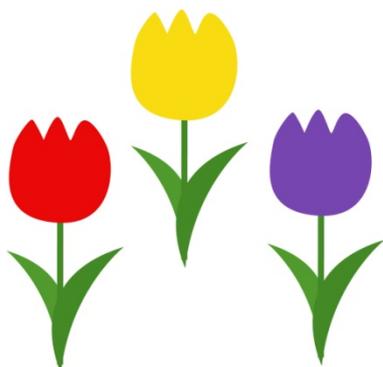
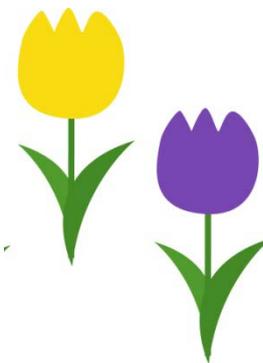
詳細は追ってご案内致します



★正・賛助会員になって活動を支えてください!

正会員 年額 10,000円  
賛助会員 年額 一口 2,000円

郵便振替口座 00120-1-447817  
加入者名 NPO法人男女共同参画 こしがやともろう



☎ 問い合わせ・申込先  
認定NPO法人  
男女共同参画こしがやともろう  
〒343-0813  
埼玉県越谷市越ヶ谷3-5-20  
電話/FAX 048-962-3963  
Eメール tomorou@hot-koshigaya.jp